

平成26年度第2回東成区区政会議 子ども・教育部会 会議録

1 開催日時 平成26年10月9日（木） 19時00分から20時30分まで

2 開催場所 東成区役所 3階304・305会議室

3 出席者の氏名

【委員】

田中 英夫（子ども・教育部会議長）、濱田 麗史（子ども・教育部会副議長）、  
石塚 克哉、五ヶ山 絹代、清水 栄二、永田 久、西野 功、藤溪 達夫、  
船津 一男、古山 治、増田 博、松井 克記

【東成区役所】

森本 万喜子（東成区長）、木口 剛一（東成区副区長）、河合 宏成（総務課長）、  
笹部 毅（区政総括担当課長）、中浦 進（まちづくり推進課長）、  
原 敏浩（地域活動支援担当課長）、中川 正己（保健福祉課長）、  
西山 明子（児童・保健担当課長）、井上 徳久（まちづくり推進課教育・広報担当課長代理）

4 委員に意見を求めた事項

平成27年度東成区運営方針（素案）策定に向けた方向性について

5 議事内容（発言者氏名及び個々の発言内容）

【笹部課長】 本日は非常にお忙しい中、平成26年度の第2回目となります東成区区政会議 子ども・教育部会にご出席いただきまことにありがとうございます。進行を務めます、区政総括担当課長の笹部です。よろしくお願いいたします。座って説明させていただきます。

それでは早速ですが、開催にあたりまして、冒頭、森本区長より一言ご挨拶申し上げます。

【森本区長】 皆さん、こんばんは。とてもお忙しい中、きょうもお集まりいただきましてほんとうにありがとうございます。ちょっと涼しくなってきた、きのうは皆既月食が見られて、月が出たら何となく秋らしいなとか思うんですけども、先週、また今週も台風

が近づいてきておりまして、被害がなく、台風が早く通り過ぎていってくれたらいいなと思っております。

さて、今回につきましても、子ども・教育部会として、子育てや教育の分野に関してさまざまな意見をいただきまして、来年度の27年度運営方針の策定にご意見を反映させていただきたいと思っておりますので、忌憚ないご意見をいただきたいと思います。

この間、中学校のほうは少し早目に回れたのですが、小学校のほうにも、行事ではなく、校長先生などとお話をしたいなということで、今、回らせていただいております。学校、保護者、地域を結ぶのに、区役所が何ができるか、また、子育てに何ができるかということ、区役所としても考えてまいりたいと思っておりますので、きょうはどうぞよろしくお願いいたします。

【笹部課長】 それでは、本日の子ども・教育部会の開催状況でございますが、委員15名中12名のご出席をいただいておりますので、本部会が有効に成立している旨、ご報告申し上げます。

次に、本部会の公開につきましては、区政会議に準じて公開ということになっておりまして、議事録や写真等につきましても公開する予定でございます。ひとつご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それと、携帯電話等につきましては電源をお切りいただくか、マナーモードのほうをお願いしたいと思います。また、会場内での通話のほうはご遠慮いただきますようお願いいたします。会議が始まりましたら私語等をご遠慮いただくようお願いいたします。

それでは、お手元の資料の確認をさせていただきたいと思います。まず、資料といたしまして配席図、子ども・教育部会の委員名簿、次第、それと、平成26年度東成区区政会議 これまでの経過と今後の予定についてという資料、それと、東成区の概要、それと、平成27年度東成区運営方針（素案）の策定に向けてということで、課題が2つございまして、「子育て」と「教育環境の充実」となっております。過不足等あれば挙手いただければと思いますが。

なければ、議事に入ります前に、本日の部会の位置づけにつきまして、簡単にご説明させていただきたいと思います。資料の平成26年度東成区区政会議 これまでの経過と今後の予定についてという資料をお願いしたいと思います。上段のこれまでの経過と、下段の今後の予定と2つになっておりますが、まず、今年度は5月9日に新区長に森本を迎えてから初めてとなる区政会議の全体会を開催し、年度の開始にあたって、今年度、平成2

6年度の運営方針及び予算につきまして、ご意見をいただいていたところでございます。

そして、その下、2段目です。7月に3部会を開催いたしまして、前年度の運営方針の振り返りとして、区役所が行いました自己評価と、今年度以降の区政運営につきましてご意見をいただいております。

次に、3段目ですが、8月26日に第2回全体会を開催いたしまして、各部会で出されましたご意見等の報告をいただきまして、平成25年度の区政運営に対する外部評価として、皆様からご意見をいただいていたところでございます。

そして、今回の部会ですが、資料の中段以降、今後の予定の一番最初のところです。10月2日から10日、第2回各部会と記載のあるところです。これは、来年度の、平成27年度の区政運営の基本となる運営方針（素案）を策定するにあたりまして、区役所が考える各課題に対する取り組みの方向性につきまして、皆様方からご意見をいただきたいと考えております。

その上で、いただきましたご意見を踏まえまして、各課題に対する具体的な取り組みを策定いたしまして、その下段、10月29日に今年度3回目の全体会を開催いたしまして、そこで運営方針の素案としてまとめたものをお示ししてまいりたいと考えております。どうぞご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、以降の部会の運営につきましては、田中議長のほうにお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【田中（英）議長】 皆さん、こんばんは。田中です。よろしくお願いいたします。座ったままで進めさせていただきます。

それでは、ただいまより平成26年度第2回目の子ども・教育部会を始めます。本日の議題は、先ほど区役所より説明のあったとおり、平成27年度の東成区運営方針（素案）の策定にあたって、各課題に対する取り組みの方向性について、皆さんのご意見をいただきたいと思っております。

本日皆さんからいただいた意見を参考に、来年度の東成区の区政運営の方向性と、その実現のための具体的な取り組みを策定する重要な場となります。皆さんにはできるだけ前向きなご意見をいただき、有意義な会議にしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、早速ですが、区役所より説明を受けていきたいと思っております。説明は1項目ずつ行っただき、それぞれの項目ごとに委員の皆さんのご意見をお聞きしていきたいと

思います。できるだけ全ての委員の皆さんにご意見をお聞きしたいと思いますので、最後までご協力よろしくお願いいたします。

それでは、区役所さん、説明をお願いいたします。

【西山課長】 私、児童・保健担当課長、西山です。よろしくお願いいたします。

A 3 サイズの資料です。上部に平成 27 年度東成区運営方針（素案）の策定に向けてということで、右の上に課題の 1 つ目として「子育て」ということで、ご説明をさせていただきます。

まず、左のページをごらんいただきまして、子育てに関して、まず中段の課題にありますように、課題認識として大きく 2 点を持っております。核家族化の進行や地域コミュニティの希薄化といわれて久しいですが、こういったことによりまして、子育てが孤立化しやすくなっておりまして、子育てに不安感や負担感を感じている子育て家庭が多いということが、1 つの課題であります。

それと、2 つ目にありますように、やはり働く女性も増えておりまして、あるいは家庭の経済状況ということもあろうかと思いますが、共働き、あるいはひとり親家庭もいらっしゃると思いますが、仕事と子育てを両立するのを支援していくということが課題の 1 つと考えております。

続いて、課題を踏まえながら今の現状ですが、上の段に現状となっております、区民モニターアンケートによりますけれども、子育てについて、子育て世帯に対する地域とか、東成区の取り組みについての満足度ということでは 42.3%。

2 点目、小学校の就学前の子育てに関することで、困ったときに相談する相談先としては、やはり家族、親戚、知人等が一番多くて 85.9%で、幼稚園、保育所（園）は 39.7%。以下、より身近な相談窓口になっていくんですが、子育て支援センター・子ども子育てプラザ、あるいは区役所、こども相談センター、地域子育てサークルという順になっております。

3 点目として、東成区や、各校下で取り組んでいる子育て支援事業に参加したことがある割合ということで、参加したことがあるが 51.3%、参加したことないが 48.7%となっております。

また、平成 26 年度 4 月 1 日現在で、保育所の待機児童数はゼロということになっています。東成区は 2 年連続でゼロということになっています。

このような結果から要因分析をしますと、まず 1 点目として、子育て世代に対する地域

や行政の取り組みへの満足度は、これでも昨年度よりは増えているんですが、やはり半数以下と低いため、子育て支援関係者、関係団体とより一層連携して、子育て世代のニーズ、地域の実情を把握した上で、子育て支援の取り組みを充実していくということが重要だと考えております。

2点目です。2点目として、地域の子育て支援機関における子育て相談の割合が、やはり少なくなっておりますので、行政や地域の子育て支援事業への参加も、先ほど見ていただきましたように、約半数と少ない状況になっております。こういった相談機会とか、子育て支援事業の情報が子育て世帯に知られていない、周知ができ切れていないということも課題でありましょうし、また、それを利用されていないために、おそらく支援を要する子育て家庭に十分な支援が行き届いていないのではないかとこの懸念がございます。そのため、子育て支援の取り組みの充実とともに、利用しやすい仕組みの充実を図る必要があると分析されます。

3点目として、年度当初の保育所の待機児童はゼロということなんですが、やはり保留となった児童であったり、あるいはやはり年度途中で預けたいという、途中入所の子どもさんが待っておられるのも事実ですので、こういったニーズに対応した保育所の入所枠の確保も、引き続き必要だと考えております。

もう一度課題のところを見ていただきたいんですが、そういうことで、課題点として、今の子育てに不安感、負担感を感じる子育ての家庭が多い現状の中で、子育て家庭の満足度を高めて安心して子育てできるように、身近な相談支援体制の充実や、さまざまな子育て支援機会や、多様な媒体を活用した情報提供に努めながら、地域社会全体で子育て中の保護者を支援する仕組みを充実していく必要があると考えております。

また、仕事と子育ての両立支援が図られるように、保育所待機児童ゼロの状態を引き続き維持していく必要があると考えております。

その下に、今年度、26年度の取り組み、あるいは課題改善策ということで整理していますが、まず主な取り組みとして、1点目が子育てネットワーク構築支援事業といいまして、子育ての支援のための機会、イベントを実施しております。7月に子育てサークル大集合ということで、各校下のほうで主任児童委員さんをはじめ、地域ボランティアさんのご協力のもとに、地域子育てサークルを実施していただいておりますが、その11校下が区民センターに一堂に会する合同イベントになっておりまして、その日1日、親子の皆さんに参加して楽しんでいただくというイベントなんですが、また、地域子育てサークル

も知っていただくというイベントです。これについては149組の親子の方に参加をしていただいております。

また、子育て応援隊事業といいまして、そういったイベントであったり、地域の取り組みであったりを応援していただく、人材育成の趣旨もございまして、そういった取り組みも今年度、今は2回18組ということですが、引き続き地域の皆様と連携していただきながら、進めていきたいと考えております。

あと、課題ということでは、これだけ見るとちょっと取り組みがわかりにくいのですが、書いていませんが、実はつながるクラブというのがございまして、子育てサークルを利用していただくときに、カードを発行しております。これは今年度4月から始めておりまして、ひがしなりっ子 すくすく・つながるクラブというんですけれども、そのカードを登録していただきますと、郵送でカードをお届けするのではなくて、主任児童委員さんのご協力のもとに、子育て家庭に届けていただくという仕組みになっています。

そこで、まず子育て家庭の方は、地域に相談できる主任児童委員さんがいらっしゃるんだということでつながりができますし、主任児童委員さんにしても、地域の中で見守れるご家庭というのがわかるという仕組みになっています。そのカードを使って、身近な地域の子育てサークルなんかに参加をしていただくということになっています。会員番号とかがございますので、それを提示して利用していただくというカードになっております。

これについて今、新しく子どもさんが生まれとか、あるいは転入された方にも周知をさせていただいて、登録していただいております。大体平均して1日1件ないし2件というペースで登録をしてきていただいておりますが、大体お母さんが来られるというよりは、ご主人さんが来られるという場合もありますので、ちょっと保留をしてということで、まだ登録をされておられない方もいらっしゃいます。もちろん、このカード、今のところ皆さんに義務的にということではないんですけれども、こういったことで、地域に、例えば主任児童委員さん、あるいは子育てサークルに行く機会というのが、孤立化をしがちな子育て家庭に、やはり何らかのつながりができて、安心感につながっていくということもございまして、このつながるクラブに入っただけのメリットをより付加していく、より多くの方に利用していただくということが、まず1つの課題かと考えております。

2点目の取り組みとしては、なにわっ子すくすくスタート事業ということで、子育ての支援情報をより身近に利用していただきやすくすることで、保護者の方、子育て中の方なんかに編集会議にも参加していただいて、より使いやすい情報提供をしていこうと

いう取り組みです。これについても、まだ今年度については編集会議を開催中でございまして、保護者のニーズにより応じたような子育て支援の情報誌を、できるだけ早くに作成してまいりたいと考えております。

今後も引き続き、子育て家庭、当事者のニーズにより合った形での情報提供という意味で、応援隊事業の充実等を図りながら協力者、子育てボランティア、子育て中の保護者の参加を増やしていきたいと考えております。

3点目として、保育所待機児童の解消ということで、4月1日現在ではゼロではございますけれども、まだまだ途中入所の待機の方であるとか、潜在ニーズもあると考えておりますので、引き続き入所枠の拡大に努めていきたいと考えておりまして、今年度、26年10月1日に小規模保育の東中本みらい保育園が開設をしました。予定となっておりますけれども、今10月1日現在で開設をしております。

これは、保育所よりも小規模で、ゼロ歳、1歳、2歳、待機児童の多い年齢層を受け入れるという、身近なところで、小規模で預けやすい保育所ということで開設をしていただきまして、定員は19名ということですが、今現在16名の方に預けていただいております。主な取り組みとしては今こういったことを進めております。

次、右側に行っていただきまして、これらのことを踏まえて、平成27年度、来年度東成区の運営方針の策定の方向性ということで、まず区役所のほうでお示しをさせていただいて、またご意見をいただきたいと思っています。

区役所が考える方向性としまして、めざすべき将来像ですね。おおむね10年から20年間を念頭に設定ということで、やはり子育て支援情報が行き届いておって、子育てに悩んだ場合に、身近に相談できるところがあるという状態で、安心して子育てができるという状態をめざしていきたいと考えています。

2点目として、行政、関係機関、地域等が一層連携することによって、地域社会全体で子どもや子育てを支援する取り組みが事実として、子育て家庭が満足している、子育て家庭の満足度が高いという状態をめざしていきます。

3点目として、仕事と子育てが両立できる環境が整備されていて、その人その人のライフスタイル、生活様式に応じて、安心して子育てができるという状態をめざしていきます。

そして四角の中が、当面といいますか、おおむね3年から5年間を念頭に置いためざす状態ということで、1点目としましては、身近な地域での相談・支援体制や情報提供を充実することによって、子育ての不安が軽減され、安心して子育てができるという状態、そ

して、待機児童の解消を維持し、子育て家庭の要望や地域の実情に応じた保育を提供することにより、仕事と子育ての両立支援が図られるという状況をめざしていきます。

そのために、主にこういった取り組みということで、2点挙げています。

1点目が、子育て支援関係者・関係団体と連携して、子育て支援の取り組みの一層充実を図るとともに、子育て家庭と地域のつながりづくりを支援する、ひがしなりっ子 すくすく・つながるクラブを充実していきたいと考えています。

2点目として、保育に関する要望を踏まえ、年間を通じて民間保育所へ入所枠の拡大を働きかけるとともに、先般東中本みらい保育園が開設しましたけれども、こういった小規模保育事業の実施等によりまして、待機児童の解消を図っていききたいと考えています。2点だけということではないですけど、主な取り組みとして掲げさせていただいております。

説明としては以上です。皆様のご意見よろしくお願いします。

【田中（英）議長】      ありがとうございます。

それでは、1つ目の項目の「子育て」について、今、区役所より現状並びに要因分析、課題、27年度の運営方針の説明がありましたが、何かご質問、ご意見がございませんでしょうか。お一人ずつ挙手にてお願いいたしたいと思いますが。

女性の方のほうがわかりやすいと思うんですけど。

【五ヶ山委員】      子育て支援といいますけども、ちびちゃんサークルに出てくる人は、大概大丈夫だと思います。中道やったら中道だけじゃなく、いろんなところを回ってはるんです。楽ですから。その時間、楽しく。ほんで、来はっても全部受け身です。手とり足とりやってもらって。何かで見たんやけど、よその校区というか、どこやったか忘れましてけど、それがなれてきたら、今度は親子で、親同士で連携させて、ほんで自分たちで何かを1つでもするというのを指導していくというか、教えていくというか、一緒にやりましょうという形があるというんですけれども、うちは全部受け身で「やってるから来ました」。中道は2階なんですけれども、階段上がって、何かちょっとつくったり、体操しますとか、それが終わったら「ほんだら体操してお疲れさん」。もうそのままですよ。普通やったら「ちょっとお掃除手伝いましょうか」とかいうのも何もないし、もう全部受け身で、してもらって当たり前ですよ。そういうお母さんが大人になったときに地域に出てきてほしいから、私たちはいっぱいいろんなことを協力してるんやけど、受け身やからしてくれませんよね。自分たちで考えて、何でもかんでも全部やりませんじゃなくて、ちょっと考えてみませんかとかいうことも、提案してほしいなと思います。

きょう、虐待のニュースありましたよね。8歳の子がお腹鎖に巻かれて。そういう、出てこない人のほうをどうしてはるんか、ちょっとお聞きしたいです。ちびちゃんサークルに出てくる人は、それはもうちゃんと、いろんな格好して来はりますから、大丈夫ですわ。ほんで終わったら「ほんではご飯食べに行きましょう」とかいう人が多いので。

ほんでうちの中道は、よその校区からも半分以上来はるんで、そこも悩みの種です。地域を育てたいと思っていろんな協力してるのに、地域に育っていく人が少ないので。例えばよその、中央区やったら中央区でいずれ小学校行ったり、幼稚園行ったりするんだったらそっちへ行かはって、ずっと連なったほうがいいのになと思いますけどね。今のところ、来るなとは言うてませんけど。そういうところが悩みの種です。

【田中（英）議長】 中道さんの校区じゃなしに、東成区以外の方が来られる？

【五ヶ山委員】 そうです。

【田中（英）議長】 そやけど、そういうシステムは、中央区やったら中央区さんのところにもあるんでしょうね。

【五ヶ山委員】 あると思います。

【田中（英）議長】 各区にあるはずですわね。

【五ヶ山委員】 はい。

だから、城東区に中央区に天王寺区に。

【田中（英）議長】 来られている方？

【五ヶ山委員】 前は都島からも来ていました。

今、私は女性会の役をさせてもらっていますけれども、やっぱり地域でいろんなことを順番に習ってきて、見ていて、ああそうやな、やってくれてたな、ほんだらちょっと恩返しじゃないけど、今度は私たちがする番やなという気がないと思いますわ。

以上です。

【田中（英）議長】 ありがとうございます。

でも、うちの校区は集会所とか憩の家なんかで、子育てサークルというのはありますけどね。

【五ヶ山委員】 月1回の1時間か2時間ぐらいやからね。

【田中（英）議長】 少ないですか。

【五ヶ山委員】 何もできませんけど。

よそはどんなんでしょう。

【西山課長】 今のご意見について、ほんとうにおっしゃるとおりで、私たちもほんとうに、支援を必要とするご家庭の方というのは、そういうイベントをしたりとか、サークルとかに出てくれない人のほうが多いということだと思います。

私たちの仕事の中で、まず出産されてということですので、保健所であつたりとかいったところで、保健師なんかも接点を持って、最初から明らかにこの方はちょっと苦労しているとか、悩んでおられるなという場合は、ケースとしてかかわりが持てると思うんですけども、そうでないケースもあると思います。おかげさまで、3カ月健診は大方の方が来ていただけることはあるんですけど、それでも来られていない方もいらっしゃいます。

その後、今までは大丈夫だったけれども、ふとそういう孤立化している状態で、やはり特別な方が虐待したりするのではないと思っていますので、あるときストレスがきてというところもありますので、そういう意味でできるだけ早いうちに、こういったつながるクラブでつながりをつくっておくということも重要なと考えております。

ただ、入り口で「もうサークル行かないし」とかいった方もいらっしゃると思うので、そういう意味でも何らか別のといいますか、このクラブに入る魅力をもう少し高めることによって、できるだけ早い段階でそういうつながりのきっかけを多くの方に持っていただくというのも、東成区の独自のつながるクラブの取り組みでもありますので、そういったことも充実していきたいと思ひますし、もちろんそれでも拾い切れないところもあると思ひますので、そういう意味ではもっともっといろんなことを考えていかないとはいけませんし、あるいは地域とか保育所であつたりとか、それぞれの関係機関が気になるケースがあれば、横のつながりでちょっと見守っていくとかいったことも含めて、より深く考えていく必要がありますね。

【五ヶ山委員】 そのつながりもね、地域もつながりも大変なんですよ。みんな高齢者やからね。

【西山課長】 そうですね。

【五ヶ山委員】 地域、地域ばかり言われても困るんです。

【西山課長】 これは、これ以上という意味ではなくて、今も見守っていただいているというところで。

【五ヶ山委員】 もう今でも手一杯です。

【西山課長】 そういう意味では、課題認識として、ほんとうに我々も思っているところですよ。

【田中（英）議長】 女性の方は子育ての場に参加する機会が多いと思うんですけど、僕ら男性はなかなかそういうサークルに入ることないですからね。何か男性の方でご意見持っておられる方ございませんか。

【増田委員】 増田です。

今の話の中でも出ていましたけども、いろんなサークルなんかに参加している人は、特に問題ないと。

【五ヶ山委員】 全くはないんですけど、ない人のほうが多いですよ。

【増田委員】 問題ないというのは、結局ここでいうてる現状で、モニターアンケートの結果ということで数字にも出されていますけども、実際、このモニターのアンケートというのはどのぐらいの数集計されているんですかね。

それと、やっぱり区全体と考えた場合、アンケート1つにしても、何かの催しに参加する人だけにしか手が届いていない。そういう実態があるのやったら、もっと幅広う声を吸い上げるためにどないしたらええんやろなというのが出てきてないのかなと思うんです。そこらのところをちょっとご意見いただきたいと思います。

【田中（英）議長】 西山さん、このアンケートは何名ぐらいの。

【木口副区長】 別の部署でやらせていただいていますので、今調べさせていただいています。

【笹部課長】 モニターの検体数といいますか、とっている数は352人の方を登録させていただいてまして、その中で、実際回答いただけるのが、全員じゃないのがちょっと残念なんですけども、大体208名ぐらいが、200人強。

【増田委員】 それは、何回かに分けてですね。

【笹部課長】 そうですね。

【増田委員】 一遍にこれだけやったというわけではないですね。

【笹部課長】 これは1回です。年何回かはやっているんですけどね。

【増田委員】 それは先ほど一番下のところで、サークルの合同イベントで149組の参加があったと。何かそういうイベントに参加された方のアンケート集計ですか。

【笹部課長】 いや、そうじゃなくて、普通に言うたらおかしいですけど、ごく普通にモニターとして抽出された方から意見をいただいているという形で。

【増田委員】 モニターというのは何人ぐらい登録されて。

【笹部課長】 今言いましたように、東成区で352名に登録していただいています。

その中から大体 6 割ぐらいが回答していただけるという。

【増田委員】 回答が 6 割ですね。

【笹部課長】 はい。

あと、イベントとかをやれば、その都度。

【西山課長】 そうです。いずれもアンケートとっております。

【増田委員】 その 350 人のモニターを依頼している方に対しては、郵送なり何なりで、アンケートをお願いしますということでやってるわけ？

【笹部課長】 そうです。

【増田委員】 ほんなら、そのモニターとして登録されている人は、当然それなりの意識も持ってはるわけですね。それで、6 割ほどの回収ですよというところなんですか。

そういう点では、全体からいうたら、もうちょっと広げるという課題は出てくるのかなと思うたりはするんですけどね。

【笹部課長】 どこまで広げるかというのがね。

【松井委員】 統計学的には、それだけの数いうたら、結構正確に出とるはずですよ。学問的にいうたら、そんだけやったら十分やと思います。

【増田委員】 そやから、ある意味そういうのを意識して、モニターとして委嘱されている人については、それは答えないかんという意識も当然あるやろうと思うんですわ。そやから、そこらのところでは、全体のレベルでいうたらどうなんかなという疑問がありますね。その人らと一般の区民の。

【西山課長】 意識の差がありますね。

【笹部課長】 ただ、モニターの方の選び方というのは、公募で選ぶ場合は、皆さんおっしゃるように、意識があって、私モニターになりたいですという方、おられますよね。それと、無作為抽出で選んでいる方もおられます。だからここではかなり区民の意識みたいなのがわかるんやないかなということで、区役所ではモニターの結果というのはかなり重要視しているという状況ですね。

【増田委員】 結局、モニターやってもうてる人に対しては、年に何回かそういう働きかけをしてはるということですね。

【笹部課長】 はい。

あと、これと別に、いろんな場面でイベントをやりますから、イベントをやったときにはそれぞれその都度アンケートはとっているという形ですね。

【西山課長】       そうですね。

【松井委員】       そのアンケートの結果ですけど、やっぱり期待はしてたんですけど、家族、親戚というので85.9%の相談となってますよね。これ、もうええことやなと思うのは、地域に帰ったら、皆さんご存じやけど、もうほんま、今どこへ行っても、年寄りななぽでもおりますからね。

          というのは、多分その人らはじいさん、ばあさんや思うんですよね。そやから、こういう数字が出るということは、区役所でいろんな企画して、おんぶに抱っこでやってあげるのもええけど、もうちょっとこういうのを利用して、利用いうたら語弊あります、当り前の話やから。はっきり言うて、子育て、小さいときからそうやし、小学校上がってからも見てやるとか、遠慮なく見てもらうとか。そのぐらいのこと、やっぱり家族やったらやっていくように、持っていく方向も考えな、何でもおんぶに抱っこでやってあげるよ、何かこっち、こういう施策しますよというのでは、多分何も来ないというたら悪いけども、権利意識だけで、役所、行政に言えば見てもらえるという話。

          これはちょっと行き過ぎや思うのは、やっぱり次出てくる小学校行ったら、いきいき教室ありますよね。あれでも、保険料しかとってないの大阪だけですやん。はっきり言うて、よそ、みんな有料なんですよね。ひょっとしたら、こんないつまでも続けへんかなと思うたりする。

          やっぱり、そのときに出てくるのは年寄り。年寄りいうたら語弊ありますわ。自分の孫やったら、見てもええやろう思うし。そやけど、やっぱり今、おたくが言いはったように、地域では子育てサークルとか、ママさんシアターやってますよね。やっぱり三々五々やって来はるんですけど、映画でも気に入った映画やったら結構入ってくるんですけど、少なかったら四、五名というときもあるんです。

          そのうち何かええことないかいいうて、サポーターの方が考えて、自分で握り飯か何か持ってこさすと。あの子らは時間あるねんから、ちょうど昼飯そこで、子どもごろごろさせても、1階でしてるからよっぽどけがすること、自分の子ども自分で見させながらで、結構そういうのしながら、映画見て帰ってもらうのやなしに、個々にそういうところから何か自分らで話させて、前向きに、おたくも言いはったけども、何したろうかというのやなしに、自分らで考える場所を与えていかなあかんという形で。

          そやから、こっちでまた弁当用意する、そんなことしません。自分で何か持っておいでという形で前へ行かん限り、おたく言うたように、おんぶで抱っこで行政が何でもして、

地域がしてくれる、そうはいかん。やっぱりはっきり言うて、おたくも私らもじいさん、ばあさん。自分らの孫見ながら、自分らもそう育てられたから、自分らも今現在そないしてます、はっきり言うて。

だから、そういう形に、せっかくこういうええアンケート結果出てるんですから、こういうのを生かしながら、それも地域の力や思うんですよね。何か行政がこういうのしてあげる、こういうのしてあげる、やっぱり共稼ぎやから、お子さんを地域で預かるとかいう考えやなしに、自分らは自分らでどないかして、自分の知恵とつてを探して。

親子やから、多分仲ええでしょう。悪かったら、子どものためにそのとき頭下げりゃ。やっぱりじいさん、ばあさんも先のこと考えたら、孫見ることによって、先行投資してくれると思うんですよ。また、自分らが老後、もうちょっと年とったときに、絶対世話にならんあかんねんから。そういうことも考えたら、このアンケート結果、もっと大事に行政のほうで考えてほしいと思います。

以上です。

【田中（英）議長】      ありがとうございます。

子育てに関しまして、まだご意見ございませんでしょうか。

ございませんか。

そうしたら、次の項目に入らせてもうてよろしいですかね。

次の、教育環境の充実に関する説明、区役所のほうからお願いいたします。

【中浦課長】      まちづくり推進課長の中浦でございます。よろしくお願いいたします。

私のほうから、次の1枚めくっていただきますと、右肩に課題「教育環境の充実」ということで書かせていただいている資料についてご説明させていただきたいと思います。

まず、左側ですけれども、現状のデータということで、これまでも記載をさせていただいているんですけれども、これ、平成25年度のデータでございますけれども、例えば自己肯定感、自分に良いところがあると思いますかという質問に対して、全国よりも大阪市のほうが下回っておると。小学校、中学生とも5%以上下回っておるという状況でございます。

生活習慣について、朝食を毎日食べている割合についても、全国平均をそれぞれ下回っていると。毎日同じくらいの時刻に寝ている割合ということですが、この質問についても全国平均を下回っているという状況にあるというところが、大阪の現状でございます。

また、加えまして、子どもを取り巻く環境というところで、地域の環境が、子どもにとって自然、社会、文化など、体験活動に参加しやすい環境であると思う就学児童の、これは保護者に対する調査でございますが、19.2%ということで、全国の数字はないんですけれども、数字だけを見ますと非常に低いのかなと感じております。

そういったところから、次の欄でございますけれども、子どもというのは家庭生活をはじめ、学校、地域など社会における様々な経験や、特に人との交流を通じて大きく成長していくと思います。朝食の喫食の有無や睡眠時間などの生活習慣といった課題や、要はさまざまな体験をする機会が非常に少ないのかなということで、今のようなデータという状況も1つの要因ではないのかなと考えております。

課題でございますが、健全な生活習慣の形成や多様な経験ができる環境づくりのためには、家庭はもとより学校、地域が連携して、子どもや学校を支える環境づくりが必要ではないかと考えているところです。

そういったところを踏まえまして、26年度、今年度でございますけれども、取り組んでいる内容を2点ほど書かせていただいております。1つは、はぐくみネットを核とした学校支援のネットワークの活性化支援ということで、各校下にはぐくみネットのコーディネーターという方が、教育委員会から委嘱をされております。そういった方々を中心に、教育委員会事務局とも連携調整して、校下を越えた交流をやっていこうという意見交換会・交流をやっていくということに取り組んでおりまして、前回の区政会議のときには、また近々ということでお伝えしていたんですけど、ちょっとずれ込みまして10月ということで、実はあす開催予定にしております。あす第1回目の交流会を開催して、大学の先生に来ていただいて、ファシリテーターという役割をしていただいて、いろんなさまざまな意見をお聞きしようかなと考えております。

そういったところで、いろんな校下間の取り組みなんかは、また地元のほうに持ち帰っていただいて取り組むとか、そういったふうに発展していったらいいのかなと考えてございます。

2点目でございますけれども、主な取り組みで、特色ある学校づくりの支援ということで、例えば土曜授業に対する協力というところが中心になってくるかと思っておりますけれども、ここに書いてございますように、主に安全・安心なまちづくりとか、防犯とか、防災とかいったところを中心に、今まではやってきておりまして、ここには8月末現在ということで記載をさせていただいておりますけれども、これ以外にも、9月に入ってから深江小

学校さんでやらせていただいたりとかさせていただいております。

ここにも記載はないんですけども、そのほか、さまざまな支援の一環というところで、例えば交通安全の自転車の全国大会なんかがあるんですけども、そういったところにもまちづくり推進課の職員が協力させていただいて、支援をさせていただいたりしております。

あと、今年度につきましては、来年度から学校選択制が導入されるというところもございまして、学校選択の案内の冊子づくりについて、学校とも連携を密に図って、作成してまいった次第でございます。

先ほども区長が申し上げましたとおり、あと小学校長、あるいは中学校長とも意見交換会をさせていただいているという状況もございます。

そういったところで、いろんな学校の意見なんかもお聞きしながら、教育環境の充実に取り組んでいきたいと考えております。

右側になりますが、27年度の運営方針の方向性ということで、区役所が考える方向性といまして、中長期的な10年から20年の念頭の将来像でございますが、学校、保護者、地域等が協力し合い、子どもたちにとって良好な教育環境が整い、子どもたちは、自己肯定感を持ち、将来を生き抜く力を身につけて、それぞれの可能性を伸ばせるようになっていると。

また、短期、中期的な状態としましては、子どもたちの成長のために、学校、保護者、地域等が連携して、学校を支援する環境が整っている。学校においてより良い教育ができるよう、学校と区役所の協力関係が構築され、特色ある学校づくりに寄与しているという状態をめざしてまいりたいと考えております。

そこでの取り組みとしまして、2項目挙げさせていただいております。学校、保護者、地域等との連携・協力を進めるとともに、学校協議会や学校長との意見交換等を通じて、学校支援の活動や仕組みの充実、発展を図っていくと。

2点目といたしまして、学校における土曜授業等への協力を通じて、特色ある学校づくりの支援を行うと。

中身的には引き続きという観点がございますけれども、こういったところで教育環境の充実を図ってまいりたいと考えております。

本件につきまして説明は以上でございますが、皆さんのご意見を頂戴したいと思います。

【田中（英）議長】      ありがとうございます。

2 項目の教育についても、現状と、要因分析と、課題についてと、27 年度の方向性を今説明していただきました。

教育についてのご質問、ご意見もお受けしたいと思いますので、挙手にてお願いいたします。

清水さん、何か。清水委員さん。

【清水（栄）委員】 清水でございます。

非常にいろんなことを考えていただいて、努力もいただいているのはありがたい中で、私も去年までは中学校の P T A の会長をさせていただき、以前ははぐくみネットのコーディネーターもさせていただいた中での話をさせていただきますと、まず、小学校と中学校とで明らかに環境が違うんです。

というのが、基本、小学校は連合と同じなので、地域との連動というのがものすごくしやすい。小学校の校長先生も、教頭先生も、先生方も地域に協力的ですし、同じ数なので、非常にその辺の施策が打ちやすいんですけども、中学校は区内 4 つの中で、どうしてもいろんな連合をかんでいる状態になりますので、そしたらこの中学校はどこの連合とかむねんという、当然所在する連合に入るというのもちょっとおかしい話になるし、だから分割で各連合に入るのかというと、非常になかなか難しいところがあって、各連合さん、地域さんとのコラボレーションというのが、中学校としては難しいのかなと。

その中、中学校の目線からいくとありがたいのは、子どもたちが職場体験という形で地域に入って行って、いろんな仕事の見習い的なものをやらせていただくというところには、そこでうまく地域との一体感というのは出てくると思うので、今後、中学校としてはその辺をうまくコントロールしていただいたらいいのかなと思います。

あと、はぐくみネットなんですけども、きっちりとした方がおられて、コーディネーターが機能していればいいんですけども、今の P T A もなかなか人手が出てこない中で、いろんな兼務をされて、コーディネーター単独でいろんなお世話をいただいているとするならば、機能しているところはそれでいいと思うんですけども、ちょっとしんどい地域があるようでしたら、サポートできるような体制をいただけると、はぐくみのコーディネーターも少しは楽になるのかなと。孤立無援な状態に置かれているコーディネーターもおるようにお聞きしたこともあるんで、その辺はいろいろヒアリングしていただいて、サポート体制が必要なコーディネーターがあればサポートいただければ、今ここでおっしゃっているような中での機能が発揮できるのかなと思いますので、あわせてお願いいたします。

【中浦課長】       ありがとうございます。

おっしゃるとおり、中学校につきましては校区をまたがるということもございます。その辺も課題やとは思っております。

はぐくみネットにつきましても、ちょっとおくれてしまいましたけど、あす第1回目を開催させていただいて、いろいろ状況等、我々見させてもいただきたいなと思っております。

私どももなかなか勉強不足でございまして、実態等を把握し切れていない部分がございます。そういったところも踏まえて、今後に生かしていけたらいいなと思っております。

あと、職場体験なんかも、実は一部の学校で、いずれの学校かわからないですけども、例えば今、区役所にも職場体験で来られるという予定もありますし、実際に東成区はモノづくりの町というところもございますので、そういったところの地域性も生かした取り組みもできないのかなとは考えております。そういったところでの職場体験というのも、いろんな体験といった、ここにも書いてございますように、体験を通じて成長していったらえたらとは思っております。

【田中（英）議長】       いいですか。

ありがとうございます。

西野委員さん。

【西野委員】       西野といいます。どうぞよろしくお願いいたします。

また私、ちょっと違う観点から。今、清水さん言われましたけども、ちょっと違う観点からお聞きしとかなあかんと思ひまして、我々、青少年、地域でいろんな事業展開しながら子どもたちを見ています。いろいろと事業展開しながら、子どもたちと接する部分を大事にしながらやっている部分でございます。

そこで何を言うかといいますと、よう役所で言われる「開かれた学校」、ようその言葉を使われてはります。「小中連携」とかいう言葉も使われているんですけども、実際我々、低学年、中学年、高学年と、小学校から子どもを見ていますと、やっぱり高学年になってきますと、だんだんその兆候というか傾向が出てきて、ちょっとこれ、この子ら気をつけなあかんという部分が出てくるんです。やっぱりそういう子も出てくるから、我々も気をつけて地域が見ている部分あるんですけども、なぜそれを言うかというたら、開けた学校というてるけども、まだかたい。小中連携できてない。先生は言うてるというけども、実際ここに書いてる意見交換か、そういうもんしかやってないんちゃうかと。

実際、小中連携がとれてるんやったら、そういう子が中学校に上がるんやったら、もうちょっと、こういう子が学校に上がりますよという部分もちゃんと連絡をしとけへんかったら、その報告が何も入ってないから、中学校は上がったらびっくりするんですね。いざふたあけたら、そういう子が来たということで驚いてはるけども、なかなかそういう部分も言いにくいんか、かたいんか、まだ言わへんのか。

そやから、そういう部分も、校長会や教頭会やってはる中で、やっぱりその辺は区役所も、連携を保つんやったらもうちょっと保っていかなあかんし、その中に入っていくんやったら入っていかなあかんし、当然教育委員会も多分それは思うてはると思うんです。けども、まだ全体的に見ていると、まだ非常に流れがかたいとしか見えないんです。そやから、もうちょっとその辺はしっかりと小中連携の中でやっていけへんかったら、やっぱりいい教育をしようと思ってもなかなかできないという。

だから、ましてや学校選択制が出てきたら、地域の特性というのも出てきますので、やっぱりその辺はそういう流れをきちっとやりながら、開けた学校と言いはるんやったら、そういう部分もきちっと大事にしなかったら、いつまでも意見調整で終わってもうて、いいことはそういう部分の中で流されてもうて、やっぱりもっと言うていくことは言っていないで、いい学校関係を保ってほしいなと思います。

以上でございます。

【田中（英）議長】      ありがとうございます。

【松井委員】      松井です。

今、西野さんおっしゃったけども、やっぱり中学校、中学校で格差があると思う。私ら地元は、そういう連絡はさせてる。はっきり言うと、どういう子がおってというのはさせてる。

ここに、今度新しくできたけど学校協議会、もともと地域連絡協議会というのを中学校でやってますので、これにも両方の小学校の校長ももちろん呼ぶようにして、おかげでうちは小学校2つやから、そこにいろんな地域の団体が集まって、もちろん中学校の現状もちゃんと説明。学校協議会と全然違うから。

【西野委員】      そういう部分の中でやっていただいてるんやったらありがたいんですけども、ちょっと地域差がありますのでね。それを僕、総論で言うてる部分だけで。

【松井委員】      そやから、そこらの地域が頑張らな。

【西野委員】      そやから、我々もそれをいうてやってますけども、我々ばかりも。

【松井委員】 これは役所が言うても、多分動かん。そやから、西野さん、長いことした経験で言うてみやな。わしらもこの歳になったからやっと言える。小学校も中学校もPTAの会長……。

【西野委員】 そやから、我々も言えることは言うてますけども。

【松井委員】 もっと歳とり。こんなん言うたら悪いけど、はっきり言うて。

【西野委員】 そう言われると、なかなかつらいものがあります。

【松井委員】 いや、いうのはほんまに。

そやから、やっぱり地域として学校に言うて、お願いしながらしてほしいところはお願いしやなあかんと思うし、そういうのは性格的に遠慮せえへんから。ほんで、地域の会議にはいつも中学校の校長も、校長がおらんときは教頭、絶対参加させるようにさせてますんでね。しやから、毎月ですから、学校自身も地域の動きをつかんでるし、地域の間人も中学校へ出ていかなあかんときは、なるべくみんな出ていけいうて出して、やっぱり顔と顔ですわ。

【西野委員】 当然そうやと思いますし。

【松井委員】 そやから、絶対対立したらあかん。そやから、やんわりと。

以上です。

【田中（英）議長】 ありがとうございます。

【松井委員】 最前、清水さんがやってたはぐくみネット、難しいわな。

【清水（栄）委員】 そうですね。

【松井委員】 うちらは、地域でお願いした子やから、動きやすいようにしてる。言うたことはみんな協力するように。それでもなかなか、雲をつかむような話やから。教育委員会が言うてきてるもんね。

【清水（栄）委員】 そうですね。

【田中（英）議長】 石塚委員さん。

【石塚委員】 石塚です。

皆さん、PTAの経験者の方、しっかりお話しされているので、私、そこら辺全く経験ないので、ちょっと的外れなこと言ったり、わからないことあるので、お聞きしたいんですけども、自己肯定の調査ですけども、大阪市は全国と比べてやっぱり低いんですよ。だから、これはどういうことが原因で低いのか。それは行政のほうはどう考えられていますか。

【中浦課長】 東成区としては、要因分析に書いてございますように、いろんな体験とか、周りの環境が整っていないのではないかという、我々なりの考え方を持ちまして、今申しあげましたような取り組みをやっていくというところで考えております。

【森本区長】 この調査、何の調査ですか。

【中浦課長】 これは大阪市教育委員会がやられている調査の結果です。

【石塚委員】 良好な教育環境が整っていないということですかね。環境が整っていないから、今、十分聞けていないですけど、低い原因。

【森本区長】 1つだけではないと思うんです。

【石塚委員】 1つだけではないというのは。

【森本区長】 学校が、例えば教育の環境が悪いからこういうことじゃなくて、家庭もそうでしょうし、総合的に何か欠けている。それが東成区はこれというのを分析しているかって、それはないです。

【石塚委員】 ほんなら、具体的にはまだ何もないわけですね。

【森本区長】 ないです。だから、いろんな要因があるんじゃないかなと。ここは区の方針なので、そこに区役所ができることは何だろうかということを考えると、例えば家庭に積極的に介入するわけにもいかないし、そうすると、さっきから地域地域と申しわけないのですが、地域と連携をするなり、学校の方とお話ししながら、区ができることを見つけていくしかないなというのが、正直今の状況でございます。

【石塚委員】 多分、具体的に何が原因かがわかれば、これは改善できると思うんですよ。

【森本区長】 そうですよ。

【石塚委員】 だから、多分それがわかっていない。何なんだろうということをやっぱりみんなで考えて、1つからでも改善していく必要があるかなとは思うんですね。

私は田舎に育って、時代が違うから、ほんとうに子どもたち同士が、もう大きい子から小さい子まで一緒に遊んでいて、その中でいろんな切磋琢磨して、人間関係とかをつくり上げていく、そんな中で育ってきたので、やっぱりそういう、自分も認め、人も認める人に育てられるような環境づくりが大事やと思うんですよ。

特に私、北中道なので、一番感じているのは、やっぱりほんとに全く公園がなくて、今、広い公園があるところでも、何か聞いていたらボール遊びはだめとか、結構制限があったり、それからここを出ている、やっぱり安全・安心とか防犯とか、そこら辺の問題もすご

く今クローズアップされて、それはほんとうに広島的事件もあって、ベースの部分ではすごく重要な問題で、やっぱりそれを抜きではなかなか子どもたちは育てることはできないけど、逆にそういうことが進み過ぎて、大人は怖いんやとか、1人で外で遊んだら危ないんやということが進み過ぎて、囲い込み過ぎて、自由に子どもたちが外で遊んでいない。やっぱり遊びを通して人間関係をつくるから、やっぱりそこら辺のことも何か考えていくことも大事なかなと思うんです。具体的には何もないんですけど、ちょっと感じたことはそんなところなので。だから、公園がだめやったら学校をもう少し開放するとか。

うちの校長も一生懸命で、今、熱心で、この前も話す機会があったんですけども、やっぱり結構コンピューターゲームをすごく長い時間やってる子どもたちもいてると。そしたら、やっぱりそういう子たちが外で体を動かしたら、寝る時間も早く寝るし、健康にもなる。心も体も健康になる。そういうことが何か工夫できたらどうかなと思います。

【森本区長】       ありがとうございます。

【松井委員】       このぐらいのデータは小学校、中学校みんなとってるから、皆集めて、東成のデータぐらい集計できるやろう。アンケートで皆これ出してくれる。いつも朝飯食うてるか、寝てるか云々いうの、学校がとってるアンケート。

【森本区長】       学校ごとということですか。

【中浦課長】       東成区の部分ということですか。

【松井委員】       うん。これ、教育委員会の分や言うたやんか。そしたら、東成の話をしとんやから、とろう思うたら、4つの中学校と11校の小学校やから、とれいうたらとれるでしょう。私らもいてるねんから。

【中浦課長】       また、教育委員会には確認をさせていただきます。

【松井委員】       教育委員会に言わなあかんの。

【中浦課長】       そうですね、これは私どもで調査していませんので。

【松井委員】       会議するときに、学校は絶対こういうアンケートの結果を出してくるんですよ。朝飯食べてるの何%から全部。そういうもんあるんやから、そなんまで教育委員会言わなあかんの。東成区と東成の学校に。

【中浦課長】       うちにはデータがない。元ネタがなくて申しわけないです。

【松井委員】       ほんで、きょうもこんな会があるからいうて、小学校電話して。

【田中（英）議長】     多分、学校の協議会へ行ったら、その学校のデータは出てますよ。

【森本区長】       そうですね、学校ごとはあるかもしれない。

【松井委員】 もらうことできへんの。

【田中（英）議長】 門外不出やから、出してくれへんけどね。

【西野委員】 セやから、地域の中へ行ったら、大体出てくる。

【田中（英）議長】 もうほかに見せないでくださいという。

【西野委員】 地域の中では出てますわ。

【松井委員】 私ら、そんなん見せてもうてるしね、ほんでもう、テストの結果も学校要覧に全部載っとんねんから、学校も回収するわけにいかんから、みんなくれますからね。

そやから、こういう会議するんやったら、教育委員会から出てきたデータやなしに、みんなとととるんやから、東成のデータを。

きょうも、学校選択制なんかで、どないなるって小学校電話したら、1日に16人ぐらい来たいうて。いかなもんかいいうて、説明会と事業……。

【田中（英）議長】 説明会ありますね。

【松井委員】 やから、宝栄は宝栄と深江と神路と東中本が隣接してるから、ひょっとしたらこの人ら、多分4つ回るんちゃうかな思うたり、きょう教頭と話してきたんですけど、中学校は2人。

そんなん、どないなるかな思っただけでほんま心配してるのは、先ほど言われたけども、地域に行かそうかな、そんなようけとれへんけど、若干名、約10名とか、そんなんやけど、どっとそのぐらい入ってやときに、やっぱりその子らの親とのつき合いが、地域の人は接点がないからね、ちょっと心配しとるんですわ、ほんまのこと言うたら。

アンケートの件、考えてくれませんか。ちょっと東成の話をしたい。

【田中（英）議長】 今の松井委員さんの言うみたいな学校選択制で、今月から説明会があるわけでしょう。

【森本区長】 今やっている最中です。

【田中（英）議長】 やっているでしょう。その各学校に何名来られたかというデータはとれませんの。

【森本区長】 今まだ最終はないんですけど、例えば聞いているだけで、私手元にはないんですけど、中学校はそんなにたくさんの人数は、それぞれ来られていないようです。中学校はそんなにたくさんではなかったですね。

【井上課長代理】 一番多いところでは27名来られたというところがありますが、この27名全てが対象の保護者かどうかかわからないですし。

【田中（英）議長】 説明会やから、入るとは限りませんよ。

【井上課長代理】 この学校説明会をされたプログラムの直前に、外部から講師を招いて、いわゆる地域の方も含めた中で講演をされていたので、その続きでおられたということが非常にあるので、その27名が全て対象の保護者であるかどうかはちょっと不明です。

【田中（英）議長】 最終的にその説明会に来られた人数と、選択しはった人数というのは、部会でアンケートをとってくれはりますか。

【森本区長】 最終はわかりますよね。

【井上課長代理】 決まったら、最終的にはわかります。

【濱田副議長】 私、あんまり発言はしませんが、今、区役所が教育を考えてるわけですよ。学校は教育を考えてるんかどうかいいうこと、こういう問題やったらあるわね。

というのは、学校と連携してと言いながら、学校は誰も来ていないわけや。学校の意見は聞かれへんわけや。区役所から向こうへ、こちらのほうの意見はこうですよと流すのか、そして、10年、20年になったら、生まれた子でも十、二十になってまうんやからね、そういう、あんまり長期的じゃないし、時代がどんどん変わっていくし、少子化で子どもは少のうなってくるし、あった学校がいつの間になくなったり、合併やということ、将来20年先やったらなるかもわからん。

そんな先のことよりも、直近のことをもっと考えて、区役所が考えるなら学校も考えないかんし、ほんで、書いてある「より良い教育」というのはどんなことですかということを出して、学校から出してもらうて、こういうことをうちではよい教育だということをしてもらって、それに対して地域が協力すると、あるいは区役所が協力するということができなかったら、よりよい教育は理想論で、絵に描いた餅。よりよい教育というのは何かということが、案外わからんですね。成績がええのも統一試験がええだけであって、点数のとり合いっこするだけなのかという問題もあるわけですからね。よりよい教育、特色のあるいうて、どんな特色があるの。

先ほど五ヶ山さんですか、よその区から見に来るの。あれ、やっぱり冷やかしまもあるねんな。サービスのええとこどこかなと思ってね。何でも人間って、得になることやったら少々苦労してもやるわけです。だから、その辺をもうちょっと考えんと、区役所で考えてここで指針をつくっても、それを区役所がこども委員会へ、あるいは区政会議で決めましたとなっても、学校はそんなの聞いてまへんとか言われたら通るのかな。

だから、一緒にやるんならば、まず根底を、学校は学校なりのよりよい教育はこういう

教育ですよと、こういう方向に向けて我が校は進めておりますと。そりゃ、ノーベル賞とる子を育ててますと言うかもわからんけどね。そういう時代がある。だけど、よりよい教育って言葉はええんですけど、この言葉だけやと、何かな、私はちょっと具体的にわからんわけですな。そやから、そういうもの。それから、特色あるというのはどんな特色を学校は考えておるんかということも考えてほしい。

ただ、先ほどちょっとありましたけど、職場体験、東成はモノづくりの町やいうたって、もう微々たるもんや。それが全部行くんでないの。区役所へ来はったいうたって短時間、1時間か2時間。ぐるぐる回って、受付やったりするようなことをやったんやと思うけど、それは相当一生懸命やらんと、体験じゃわからんね。

だから、そういうことから考えたら、いろいろと特色ある学校づくりの支援をするにしたら、特色ある学校はこうですよということを我々も考えないかんし、学校側も考えてほしいなと思うよね。そうせんと、今さっき校区の説明会があって来ましたいうけど、これも何がサービスええかなということで、それ、言うか言わんかの違いですよ。そんなこと言うたら怒られるかわからんけど、何かええことがないかなと。給食はこんな給食やで、ええ給食出しとる。給食1つにしてもええ悪いってね。

だから、そういうこと。例えば学校の建物がええとかね、いろいろなことを言うてたと思う。だけど、もう今は全体的に学校は皆、建てかえるよりもいらわないかんような時期になってるし、耐震がやっと終わったとこやけど、まだものすごくきれいになったとは思わんけどね。

どっちにしても、区役所が考えるならば、我々も今一生懸命考えてるわけです。学校がどういう考えをお持ちかなということを一遍先に、区役所からでもよりよい教育はこんな教育ですよということを出してくださいと。したら、我々もらえるわね。またそれに対する意見なりを述べられるんじゃないかなということ、今つと思ったんですけどね。

【松井委員】 学校でもP T A新聞出しとるんですわ。そこには校長、絶対所信表明やととるから、できたらそれも、今からでもバックナンバーで取り寄せたら、ここでコピーしたらみんなに配れるねんから。あれには大概、学校長はどんなんやりたいうて、所信表明を書いてます。なおかつ、私とこ、学校で出してる学校だよりとかいうの、手間やけど、小学校も中学校も毎月回覧で地域に全部ばらまいてる。

だから、お互いの情報の交換やって、そやから今言うたこと、P T A新聞もみんな回覧でばらまきます。手間やけどね。そやから、そういうことをやることによって相互信頼で

きるし、おたくらもとろうと思うたらとれるはずや。ここにいてへんのかいな、区Pの人間。

【清水（栄）委員】 区P会長、きょうはお休みです。

【松井委員】 その人に頼むなり何したら、絶対学校でバックナンバー置いとるんからって、今、濱田さん言いはったように、学校長の所信表明載ってるやつでええからコピーして、また機会あったら配りはあったらどないですの。濱田さん、そこにはちゃんと学校長が、わてはこない1年になりたいというのを載せておりますわ。

【濱田副議長】 それが我々は協力できて、直近でできる問題なのかどうか、それも考えないかんし。口では言えることなんぼでもあるんですけど、現実にはどれだけいいことができて、東成に住んでる子どもたちがよりよい環境で、よりよい教育で、こういう特色がある子ができるんだということの具体性がない。言葉としては「よりよい」ばかりでね。ここおられる方、誰もみんなよりよい教育いうてはる。自分のとこの家ひとつにしても、よりよい家庭をつくりたい。それはそやけど、うちの家庭一つ一つ考えたときに、みんな事情が違うわけでしょう。それを地域で協力じゃないけど、近所、隣で協力いうたって、なかなかできるもんじゃないわね。

だから、もう少し学校側のほんとうの、細部にわたっての特色なり、よりよい教育にはどんなものがあるかと。どうしてもこういうことがやりたいということであれば、それはみんなで協力できることはしてあげたらええし、金がかかる場合は、それも区役所としてはそれだけの援助をしたり、市に対するお願いしたりして、東成をよくしようということやと思うんですね。何か言いたいことだけ言うて。

【田中（英）議長】 区長さんから。

【森本区長】 1つ、今の学校の所信、今どんなことを考えているかというのは、ちょうど先ほど学校の選択制の話が出ましたけども、基本的には皆さんが選んでいただくために、どういうことを考えて、何を中心としているかみたいな、学校ごとの学校案内というのを、部数があるので市民の方全員に配っているんじゃないくて、町会長さんはお持ちかもしれないんですが、関係の保護者にお配りしています。

そこには、それぞれの、例えば個性を生かして豊かな心を育てるというところもあるし、そうじゃなくて、自分はたくましいのがいいとかいうのを、学校としてというのを書いています。例えばここを見れば大体わかるので、物はないですけど、コピーなりをさせていただいて、集めることもできます。

先ほど調査とかが、やはり教育委員会というのは独立していますので、教育委員会で調査をされるんですが、今は区長が、1つは区長としての立場と、それから教育委員会の理事としての立場と2つの立場があります。その中で、例えば区長が理事の立場としてもものが言えるものもありますので、データ等もこういう目的でほしいと言え、多少過去と変わってきたので、いただけるものもあると思います。それはできないがあるので。

それから逆に、先ほど区民モニターみたいなこととか、それぞれの学校長とご相談をしてデータをとるとというのは、前と違ってできる場合もあるかと思いますので、部会部会にお考えになっていただくのに寄与するものがあれば、こちらのほうで少し考えていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

それと、もう1つは、先ほど出ていましたけども学校協議会、新たな仕組みとして地域の方と、保護者と、PTAの方などが入った協議会があって、そこで学校をよくするために、いろいろ考えていただいていると思います。そういうところに区のほうもアドバイスとかというのでもできますので、いろんな仕組みを通じましてやっていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【田中（英）議長】      あと、石塚さん。

【石塚委員】      情報提供なんですけど、私のところは高齢者の福祉施設というんですか、介護の施設をやっていて、2つの中学校が職場体験に来られていますけども、2日間、丸1日やっていますので、やっぱり1時間、2時間の短時間じゃなくて、もう丸々2日間。やっぱり私たちの仕事柄かどうかわかりませんが、ほんとうすごく子どもたちは熱心で、一生懸命でやってくれています。だから、それだけ情報提供ということで。

【濱田副議長】      そういうところへ来られる子は、やっぱり意識して来てるからええんで、中にはしんどかったいうて、帰ってきて言うのもおる。あんなとこ行くかということ言うてるのもおるねん。

だからね、ほんとうの心、子どももええ加減なこと言うて、その情報が流れてくるから、こちらのやる側としては自己満足してるかもわからんけど、やっぱそういうの、一歩引いてようと見とかんと、ご苦労さんというて、やってもうて、満足して帰ってもうたと思うけれど、それがわからんのな。それを疑ごうたらいかんけれど、もう常に自分とこの家内でも疑わなあかん。

そういう状態ですから、やっぱり子どもさんに教育していただけるなら、そういう職場体験は非常にありがたいことやし、これから将来介護士になりたいとかいう子も出てくる

かも知れません。だけど、時代の流れで、何か報道されるとあれやりたいとか、男の子やったら、サッカーがブームのときはサッカーいうてるのね。野球ブームのときは野球いうてるよね。それで、何か事故があったら、もうそれは見向きせんようになってくるし。だから、子どもの心というのはよっぽどしっかりカウンセラーしてやってはる人がつかまんと、子どもにだまされることが多いんですわ。

そやから、疑うたらいかんけど、そういうことからすれば、先生が一番身近にやってはるから、先生の意見を聞きたいなと思うんですね。そんなことで、先生の意見って、私も先生やってたんやけどね。そんなことで思いますけど、とにかく時代が変わってきよるんで、よりよい教育ということも含めて、学校側の具体性をひとつ、先ほどのポイントの中でも結構ですけども、見せてもろうて審議したら、またいい意見がいただけるんじゃないかと思います。

【田中（英）議長】      ありがとうございます。

ほかに何かご意見ございませんか。

【増田委員】      さっきの子育てのところで聞かないかんかったんですけども、10月1日に東中本みらい保育園が開設しまして、これ届いた日、きのう、おとといでしたか。僕これ読んだら、10月1日いうたら、ほんこないだやな思うて、東中本1丁目やいうことで見に行ったんですわ。

ほんだら、結構小さい、あれはマンションになるのかな、その1階のワンフロアで、何や子どもの布団とかおもちゃなんか置いて、そのときまたま子どもは1人もいてなくて、何や保母さんが外へ連れて散歩してはるよという状況やったんですけど、最初見たときに、ええっと思ったのが狭さですね。こんなところでほんまに子どもが、定員が19人やいうてなっていましたけども、今やったら16人ですか、これで大丈夫なんかなというの、もうものすごい率直に思うたんです。

そやから、そういう意味では、どんどん公立の保育所を減らしていつている。また、公設民営化に移行していつている。そういうところでは、何や待機児童をゼロにするためにも、こういう施設を広げていこうとしてはるんやろうと思うんやけども、実際それでええんかな。あと、その施設の設置基準というのか、それも公立の保育所なんかやったらいろいろあると思うんですけど、ここらとどう合致してるんかなというの、率直に疑問として思うたんですわ。

そやから、そこらでわかる部分、めざしている方向はこうなんですということも含めて、

一遍お答え願えんかなと思うんですが。

【西山課長】 基準は、もちろん大きな保育所と同じ基準ではないんですけども、やはり最低限の基準があって、しかも募集をしたときに、よりよい保育を提供できる事業者に委託をしているところなんです。今、規模が確かに、もちろん保育所と違っては小さいんですけども、今後もちろん東成区に限らず見たときに、保育所の増設が必要なところもありますし、ただそうしたら、より身近なところで、その規模に応じてはどこでも保育所が建てられるかという、広さがあるのかということもありますし、あと、ニーズがどうなのかということもありますし、幾らでも建てれるという状況でもありませんので、そのニーズに応じてつくっていくという整備計画を、市全体が作りながら進めているということが1つあります。

今後の方向性として、お預かりするのにより身近なところで、より家庭的に育てられる保育の環境でという意味でも、小規模の保育所をニーズに応じた形でより増やしていくということも、1つの方向性としてございます。

もちろん、東成区が4月1日現在の待機児童ゼロだから、もっと待機児童の多い区もあるし、だから少ないというのを見られがちかもしれませんが、もちろん東成区内でニーズの動向もありますので、それに応じて一番適した形での保育枠の充実というのは、今後ニーズを見ながら進めていきたいと考えています。

そういう小規模での保育の場所をより多く確保していくというのは、都市部での保育の充実には、やはり方向性としては1つありますし、これはもちろん国全体の方向性でもあるということなんです。

【増田委員】 いや、そやけど、結局あれ、外から見たら、ぱっと見たあれだけのスペース。子どもがどないして遊ぶんかなと、僕は思うたんですわ。まだ今が季節的にも一番ええ時期やと思います。部屋の中でも遊べるよと。これから夏になれば、子どもは水遊びもしたいやろうし、そんなどこでするんかなという、率直に思うたんです。

そやから、子どもも連れて歩く、外へ出て散歩する。きょうらでも見てたら、保母さんが背中へしょったり、手を引いたりして、子どもは連れて歩いています。それで近所の公園へ行くんやろうと思うんやけども、何かそういう点での保育設備の劣化やないかなと思うんやけどね。僕らが子どもを預けていた頃のいろんな保育所の設備なんかから見たら、やっぱり相当そういうのではしんどいやり方なん違うかなと思うんですわ。

それはいろいろ、コストの面とかいうのが強調されていますけど、それでええんかなと

いう点での疑問です。

以上です。

【西山課長】 1つだけ、仕組みとしてはそういう小規模の地域型の保育の場合に、保育ママとかもそうなんですけど、バックアップする保育所があって、そういった形で進めていって、保育所とも連携してという進め方もあるんですけども、今のご意見、もちろん十分踏まえながら、保育にとって何が必要なのか、もちろんこれは一番国の方針にのって進めていく、あるいは、大阪市の方針に基づいて進めていくことでもあるんですけども、十分実情を把握しながら進めていけるようにしていきたいと思います。

【清水（栄）委員】 勝手にできへんもんね。

【西山課長】 保育施策としてはそうですね。

【田中（英）議長】 ほかにご意見ございませんでしょうか。

ないようでしたら、ただいま本日の子育て、教育についての意見も出そろったようでございますので、そろそろ終了したいと思います。よろしいですか。

さまざまなご意見をありがとうございました。

本日の議題、平成27年度東成区運営方針（素案）の策定に関する議事を終了いたします。次の区政会議全体会にて、本日の意見、感想を報告させていただきたいと思います。

それでは、進行を区役所のほうにお返しします。

議事進行にご協力いただきましてありがとうございました。

【笹部課長】 議長はじめ、委員の皆様方、スムーズな議事進行にご協力いただき、ありがとうございました。

区長、最後に何かあれば。

【森本区長】 ほんとうに活発にいろんな観点からご発言いただきまして、ほんとうにありがとうございます。参考にさせていただいて、運営方針に生かすようにしたいと思います。

実は、私が来る前に、東成区のビジョンというのもありまして、今のご意見とか、私の考えるところを入れましたら、少し違うところもありますので、その辺りも次回の区政会議ぐらいまでに考えまして、また変えさせていただくところもあるかと思います。

今お聞きしましても、委員の方々がここの部会の子ども教育に関しまして、ものすごく真剣に考えていただいているのがほんとうにありがたいなと思いますので、いい東成区にするように頑張ってまいりたいと思います。

ほんとうにきょうはありがとうございました。

【笹部課長】 それでは、本日皆様からいただいたご意見につきましては、それを踏まえながら平成２７年度の運営方針の素案を進めてまいりまして、今月１０月２９日の区政会議の全体会で最終的な案をご提示していきたいと思っております。

本日は長時間にわたりましたが、いろいろありがとうございました。

—— 了 ——

## 6 配付資料 添付のとおり